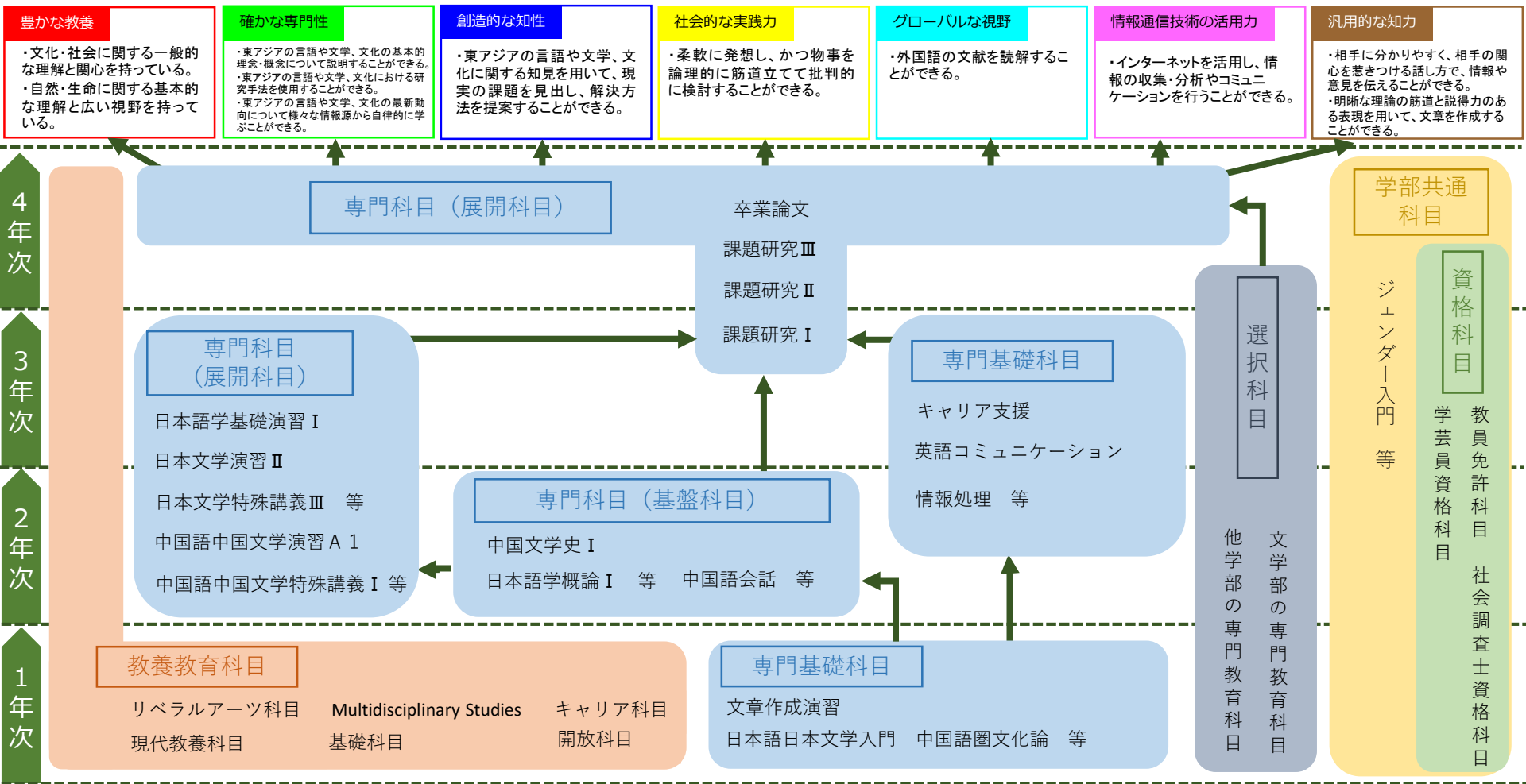


学部 文学部 文学科 東アジア言語文学コース カリキュラムツリー

東アジア言語文学コース ディプロマポリシー：
文学科東アジア言語文学コースは、学士課程教育において、教養教育で身に付けた幅広い知識や外国語運用能力を活かして、東アジアの伝統文化や現代的課題に対して幅広い目配りの出来る豊かな専門的知識と理解力を習得し、東アジアの言語や文学、文化に関して新たな課題を発見・解決し、その成果を的確に表現できる能力を獲得することを目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身につけた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・東アジアの言語や文学、文化の基本的概念・理論について説明できる。
- ・東アジアの言語や文学、文化に関する知見を用いて、今日的課題を見出し、解決法を提案できる。
- ・明晰な論理と説得力ある表現とを用いて事実や意見を伝えることができる。

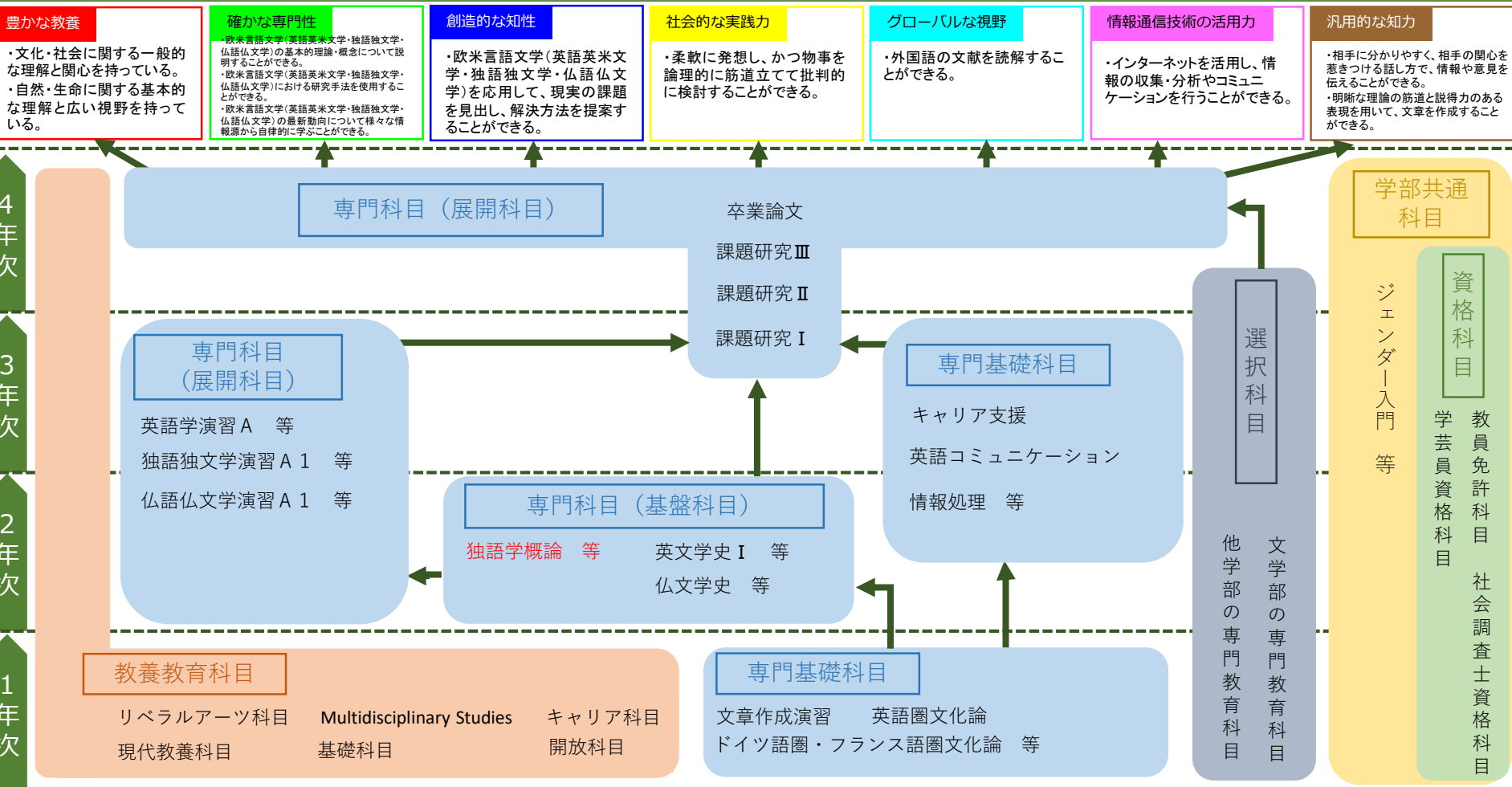
東アジア言語文学コース カリキュラムポリシー：
①教育課程編成の方針
体系性：日本語日本文学および中国語中国文学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。
段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。
個別化（進路への対応）：3・4年次には日本語日本文学および中国語中国文学の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保証するよう編成しています。
②教育課程における教育・学習方法に関する方針
授業は、知識を伝えることももちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ（問題発見）、自ら調べ（資料収集・調査）、考えていく（分析・考察）」、それを教員がサポートします。
③学修成果の評価の方針
学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ確に実施します。



欧米言語文学コース ディプロマポリシー：
文学科欧米言語文学コースは、学士課程教育において、教養教育で身に付けた幅広い知識や外国語運用力を素地としながら、英語・ドイツ語・フランス語の実践的な運用能力を高めるとともに、各言語圏の言語、文学、文化、社会についての知見を幅広く獲得し、自国の文化や制度に対する相対的な視点を持ち、英語・ドイツ語・フランス語やそれらの言語による文学、文化に関して新たな課題を発見、解決し、その成果を的確に表現できる能力を獲得することを目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身につけた者に学士(文学)の学位を授与します。

- ・欧米言語文学(英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学)の基本的概念・理論について説明できる。
- ・欧米言語文学(英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学)に関する知見を用いて、今日的課題を見出し、解決法を提案できる。
- ・明晰な論理と説得力ある表現とを用いて事実や意見を伝えることができる。

欧米言語文学コース カリキュラムポリシー：
①教育課程編成の方針
体系性：欧米言語文学(英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学)の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。
段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。
個別化(進路への対応)：3・4年次には欧米言語文学(英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学)の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保証するよう編成しています。
②教育課程における教育・学習方法に関する方針
授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ(問題発見)、自ら調べ(資料収集・調査)、考えていく(分析・考察)」、それを教員がサポートします。
③学修成果の評価の方針
学修成果の「評価方法・基準」は、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。



多言語文化学コース ディプロマポリシー：
文学科多言語文化学コースは、学士課程教育において、教養教育で身に付けた幅広い知識や外国語運用能力をもとに、専門教育では異文化接触がもたらす文化変容、もしくは人類の言語文化およびその精華である文学作品の諸相に関して、その相互作用を複眼的・国際的に考察する視野を持ち、比較文学、国際文化学の視座から新たな課題を発見、解決し、その成果を的確に表現できる能力を獲得することを目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身につけた者に学位（文学）を授与します。

- ・比較文学・比較文化、国際文化学の基本的概念・理論について説明できる。
- ・比較文学、国際文化学に関する知見を用いて、今日的課題を発見し、解決法を提案できる。
- ・明晰な論理と説得力ある表現とを用いて事実や意見を伝えることができる。

多言語文化学コース カリキュラムポリシー：
①教育課程編成の方針
体系性：比較文学および国際文化学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。
段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。
個別化（進路への対応）：3、4年次には比較文学、もしくは国際文化学の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、進学或いは専門職への就職の進路に即した科目履修を保障するよう編成しています。
②教育課程における教育・学習方法に関する方針
授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ（問題発見）、自ら調べ（資料収集・調査）、考えていく（分析・考察）」、それを教員がサポートします。
③学修成果の評価の方針
学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ確に実施します。

豊かな教養

・文化・社会に関する一般的な理解と関心を持っている。
・自然・生命に関する基本的な理解と広い視野を持っている。

確かな専門性

・比較文学・比較文化、国際文化学の基本的理論・概念について説明することができる。
・比較文学・比較文化、国際文化学における研究方法を使用することができる。
・文学・文化の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。

創造的な知性

・比較文学・比較文化、国際文化学を応用して、現実の課題を見出し、解決法を提案することができる。

社会的な実践力

・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
・社会に参加し意欲的に適応でき、公共心をもって行動できる。

グローバルな視野

・異文化理解や国際交流に関心を持ち、広い視野から物事を理解できる。
・複数の外国語による文献を読解することができる。
・外国語による基本的な対話や簡単なプレゼンテーションを行うことができる。

情報通信技術の活用能力

・インターネットを活用し、情報の収集・分析やコミュニケーションを行うことができる。

汎用的な知力

・相手を理解し、相手に分かりやすく、相手の関心を惹き付ける話し方で、情報や意見を伝えて、よい対人関係を作ることができる。
・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。
・常に向上心を持って自己開発能力、キャリア開発能力を発揮することができる。

